

青春～アオハル～

天童高等学校
1年次通信第9号
令和4年6月10日

「前期中間考査に向けて その2」

今週5日、日曜日をもって令和4年度の県高校総体が終了しました。

本校からはなぎなた部、空手道部の2つの部活動が見事にインターハイへの出場の切符を手にししました。また、陸上部でも競歩種目で東北総体への出場が決まっています。実に素晴らしいことです。その他の運動部についても大健闘だったと思います。これからはインターハイ、東北総体に出場する部活動を除き、1・2年生が主体となりますが、地区新人戦に向けて全力で活動していくことを望みます。

さて、前号の年次通信では、定期考査に向けた「学習の取り組み方」についてふれました。今回は、「苦手科目の学習の方法」について具体的に話をします。

誰にでも苦手科目はあると考えられます。中学校でも定期考査を受検してきたみなさんですが、総合成績で思うような結果が出なかった原因は苦手科目にあったはずです。

まず、なぜ苦手なのか分析してみましょう（時間はないので急ぐこと！）。

一般的には、その理由として以下の二つが考えられます。

- ① 授業の内容を理解出来ていないままにしている
- ② 覚えることが多くてついていけない

苦手科目を克服していくには、「試験に向け、一生懸命学習していくことが一番の近道である」という前向きな考えをしっかりと持ってください（試験は自分自身を大きく成長させる絶好の機会ととらえること！）。

特に①が大きな原因であれば、もう一度教科書、プリント、ノートを確認しながら、早めに教科担当の先生に疑問点を聞きに行くことです。その際、先生と話をするにあたっては、「ここまでこのように考えましたが、その後ここですまづきました。ご指導ください。」といった具合に努力の姿勢を崩さないことです。そうした取り組みを心がけていけば、少しずつではあっても必ず成果となって表れてくるはずですよ。

次に②に関しては、得意科目なら別ですが、苦手科目は早めに時間を確保して取り組むべきです。試験前日の学習のみでは、決して効果は出ません。

暗記すべき箇所は、気持ちに余裕を持って繰り返しその内容にふれていくことが必要不可欠です。

通学中の電車の車内や登校してからホームルームが始まる時間等、時間を有効に使って学習に取り組みしましょう。

年次主任